

2013年3月期 第2四半期決算説明会

2012年10月30日
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

2013年3月期

I 社長ご挨拶 / 上期決算総括

2013年3月期

II 上期決算概況

2013年3月期

III 下期・通期業績見通し

2013年3月期

IV 下期注力事項

2013年3月期

I 社長ご挨拶 / 上期決算総括

2013年3月期

II 上期決算概況

2013年3月期

III 下期・通期業績見通し

2013年3月期

IV 下期注力事項

自己紹介

菊地 哲(きくち さとし)

秋田県出身 59歳

1976年:伊藤忠商事入社

⇒主にエネルギー畑を歩み、英国(ロンドン)、オマーン(マスカット)に計10年駐在。

2006年:同社/業務部長

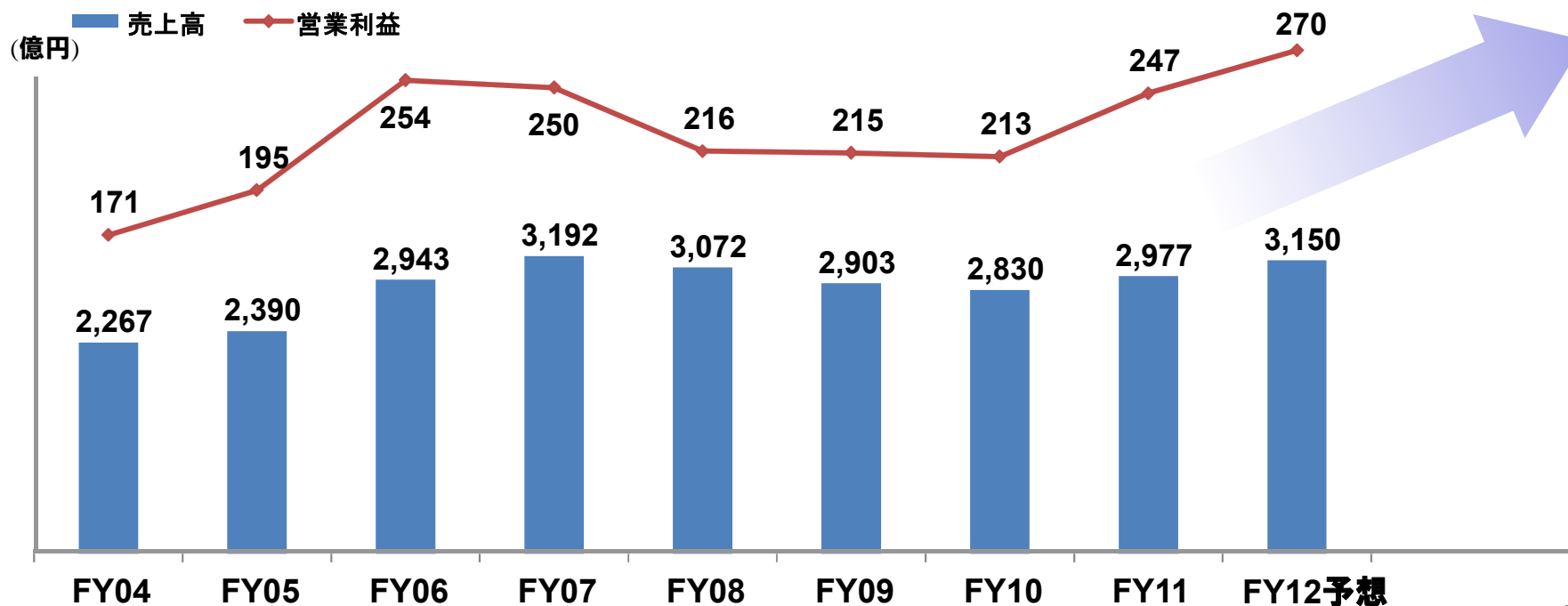
2008年:同社/常務取締役 経営企画担当役員 兼CIO

2009年:同社/生活資材・化学品カンパニー(当時)プレジデント

2012年6月:伊藤忠テクノソリューションズ代表取締役社長就任

これからの経営にあたって

いかにして成長を続けるか



目指す姿(イメージ)

IT市場を牽引する「業界トップ企業」

実現のためのキーワード

- 「強み」を「圧倒的な強み」に
- 新しい技術、新たなマーケット
- 内外でのM&A

2013年3月期 上期決算の総括



- 携帯キャリア向けビジネスが伸長し、前年同期比 増収・増益
- 売上高、及び全ての利益項目が、経営統合後最高
受注高は、郵便向け大型案件の獲得、携帯キャリア向けビジネスの
拡大により、上場来最高
- 受注・売上・利益ともに、期初予想を上回る進捗

売上高	1,463億円	(前年同期比 +12.2%)	(期初予想比 + 6.8%)
営業利益	100億円	(" +14.4%)	(" +12.9%)
純利益	55億円	(" +12.4%)	(" + 8.8%)
受注高	1,942億円	(" +36.7%)	(" +17.7%)

2013年3月期

I 社長ご挨拶 / 上期決算総括

2013年3月期

II 上期決算概況

2013年3月期

III 下期・通期業績見通し

2013年3月期

IV 下期注力事項

2013年3月期 上期 業績ハイライト（前年同期比）



	2011年度 上期 実績		2012年度 上期 実績		前年同期比	
	金額（億円）	利益率	金額（億円）	利益率	差異（億円）	差異(%)
売上高	1,304	—	1,463	—	+158	+12.2%
売上総利益	352	27.1%	377	25.8%	+24	+6.8%
販売費及び一般管理費	▲ 265	—	▲ 276	—	▲ 11	+4.3%
営業利益	87	6.7%	100	6.9%	+12	+14.4%
経常利益	88	6.8%	100	6.9%	+12	+13.7%
純利益	49	3.8%	55	3.8%	+6	+12.4%
受注高	1,420	—	1,942	—	+521	+36.7%
受注残高	1,435	—	1,845	—	+410	+28.6%

主な増減要因

【売上高】

携帯キャリア向けが牽引

【売上総利益】

製品販売比率の上昇、不採算案件の増加等により売上総利益率低下も、増収に伴い増益

【販売管理費】

人件費(賞与等)が増加

【受注高】

郵便、携帯キャリア向け増加

【受注残高】

受注の大幅拡大が寄与し、増加

2013年3月期 上期 業績ハイライト（期初予想比）



	2012年度 上期 期初予想 (4/27)		2012年度 上期 実績		期初予想比	
	金額 (億円)	利益率	金額 (億円)	利益率	差異 (億円)	差異 (%)
売上高	1,370	—	1,463	—	+93	+6.8%
売上総利益	365	26.6%	377	25.8%	+12	+3.3%
販売費及び一般管理費	▲ 276	—	▲ 276	—	▲ 0	+0.2%
営業利益	89	6.5%	100	6.9%	+11	+12.9%
経常利益	89	6.5%	100	6.9%	+11	+12.8%
純利益	51	3.7%	55	3.8%	+4	+8.8%
受注高	1,650	—	1,942	—	+292	+17.7%
受注残高	1,646	—	1,845	—	+199	+12.1%

主な増減要因

【売上高】

携帯キャリア向けが伸長

【売上総利益】

売上総利益率は見通しを下回るも、
売上の伸長により、売上総利益が増加

【販売管理費】

期初予想通りの推移

【受注高】

携帯キャリア向けビジネスの伸長、郵便向け
案件の前倒し等により大幅増加

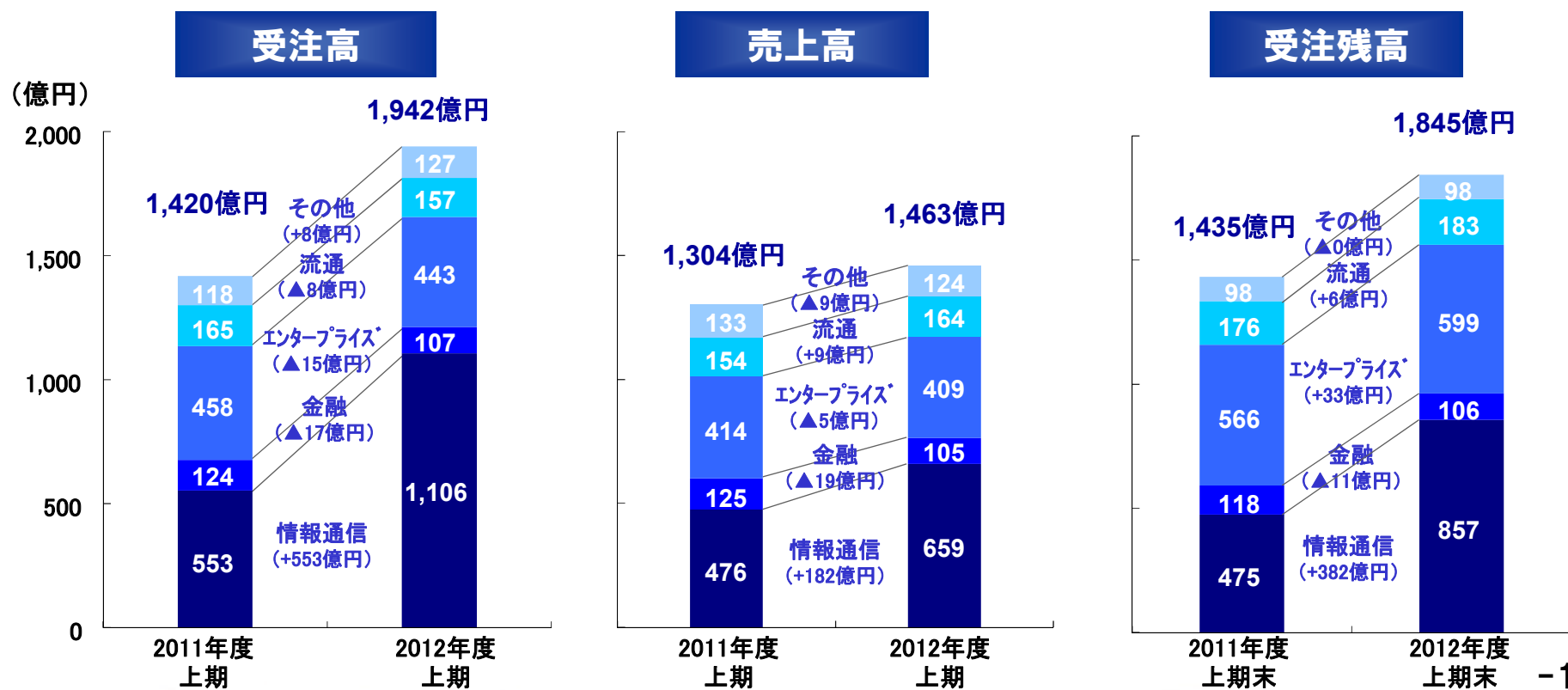
【受注残高】

受注の大幅増加が寄与

事業グループ別 前年同期比較



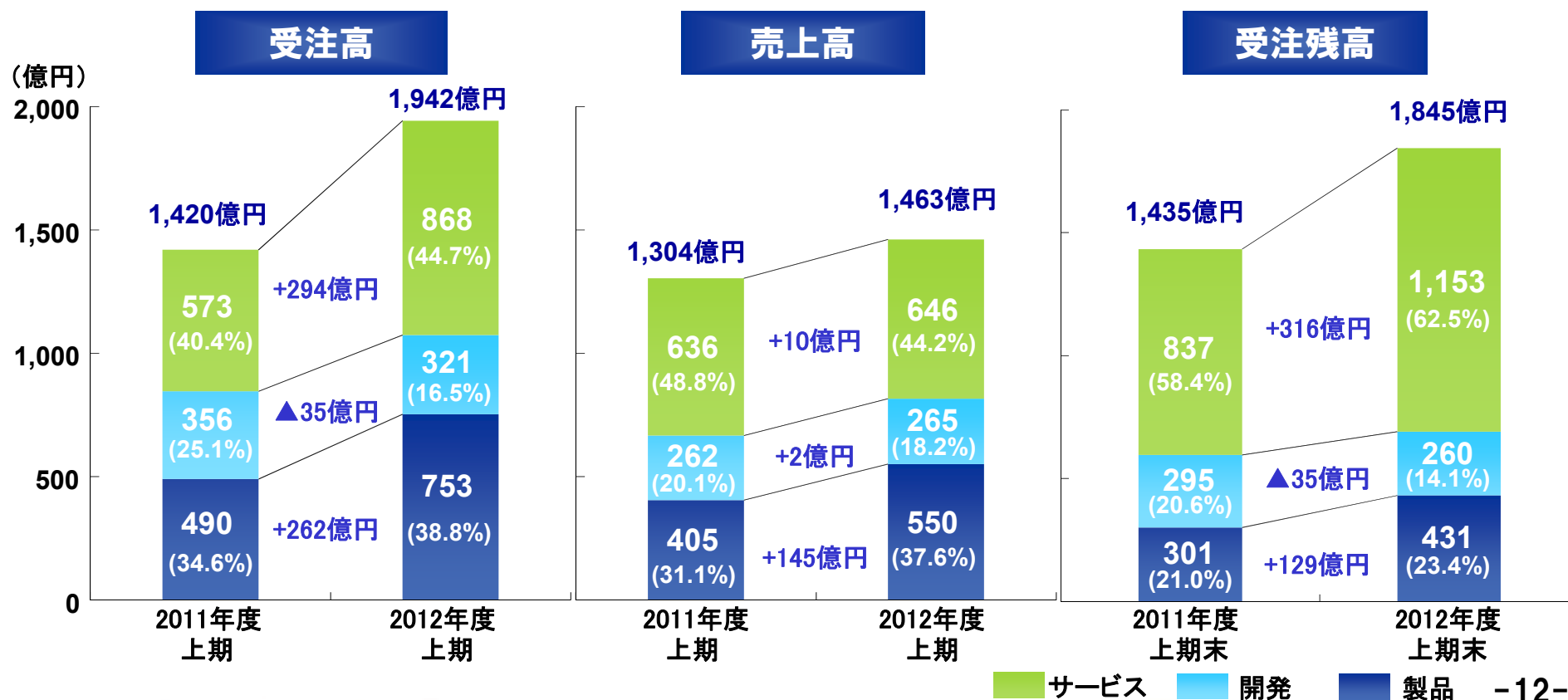
- 情報通信：携帯キャリア向けネットワークビジネス、郵便向け共通基盤案件等の伸長により受注高、売上高ともに大幅増
- 金融：カード会社向け案件が一巡し、受注高、売上高ともに減少
- エンタープライズ：前年上期の公共・自動車向け大型案件の反動等により、受注高、売上高ともに若干の減少
- 流通：運用保守契約の前年度前倒しにより受注高は減少も、石油元売向け案件等が伸長し、売上高は増加



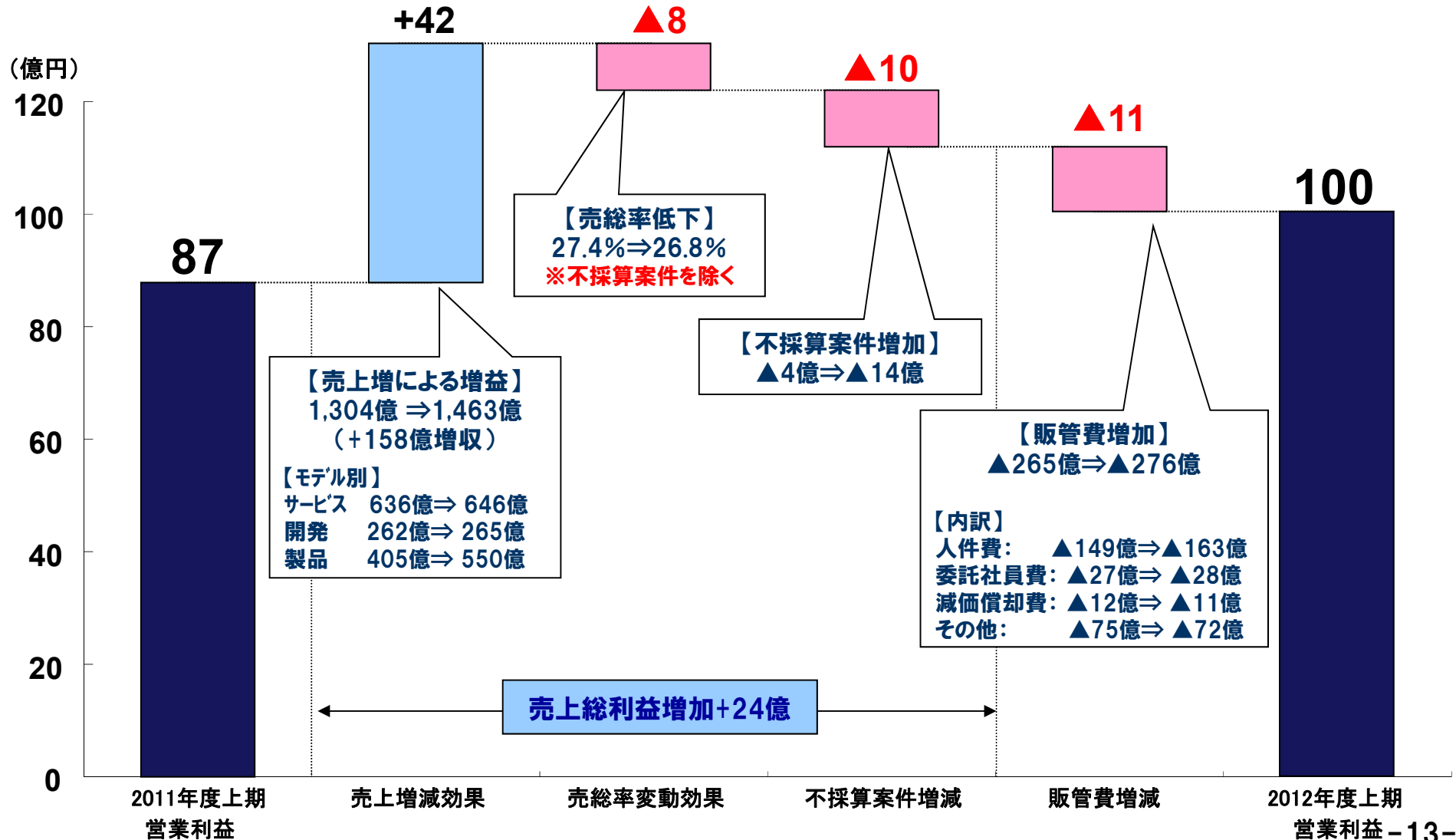
ビジネスモデル別 前年同期比較



- サービス：郵便向け保守・運用案件や、携帯キャリア向け設置・構築等の伸長により受注高が大幅増
- 開発：流通主要顧客向け開発案件の受注が減少
- 製品：郵便向けインフラ統合案件や、携帯キャリア向けネットワーク案件の伸長により、受注高、売上高ともに増加



営業利益 増減要因 (前年同期比)



【参考】 売上総利益率と不採算案件について

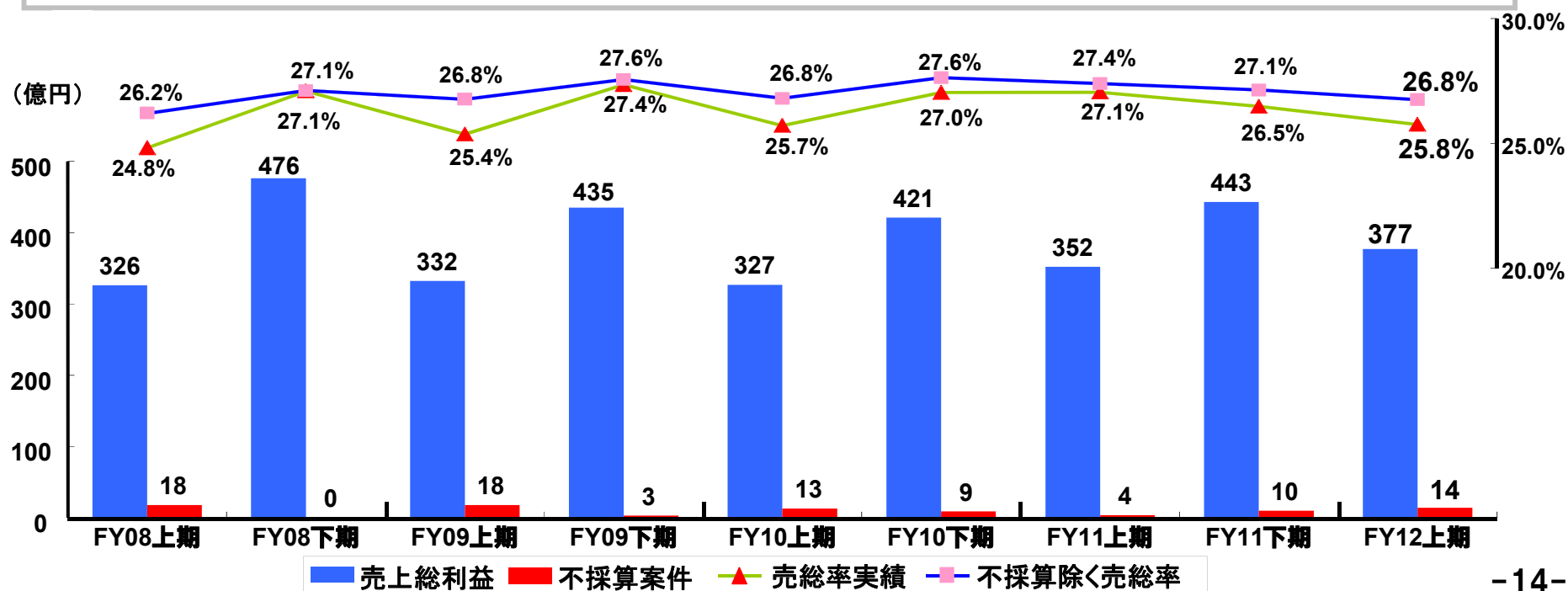
■ 売上総利益率は、前年同期比▲1.3Pts低下の25.8%

⇒ 不採算を除く売上総利益率は、同▲0.6Pts低下の26.8%。相対的に利益率の低い製品売上比率の上昇、及び前年度上期の高採算案件の反動が主要因。

■ 不採算案件は、14億円発生（前年同期比 10億円増加）

⇒ うち、4割程度は戦略受注案件

⇒ 来年度以降の売上予定案件に関するものは約10億円

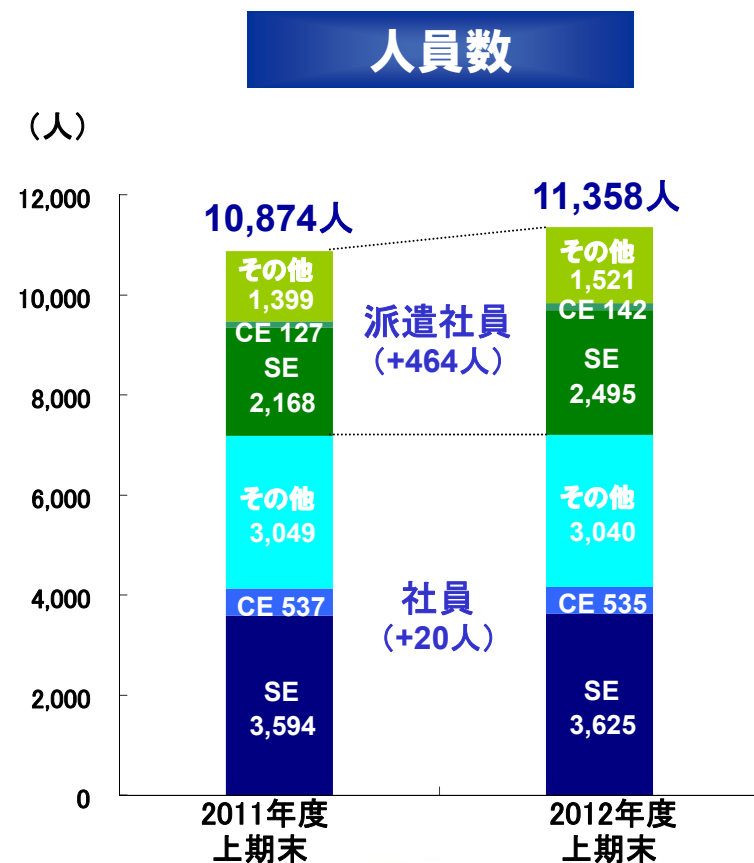
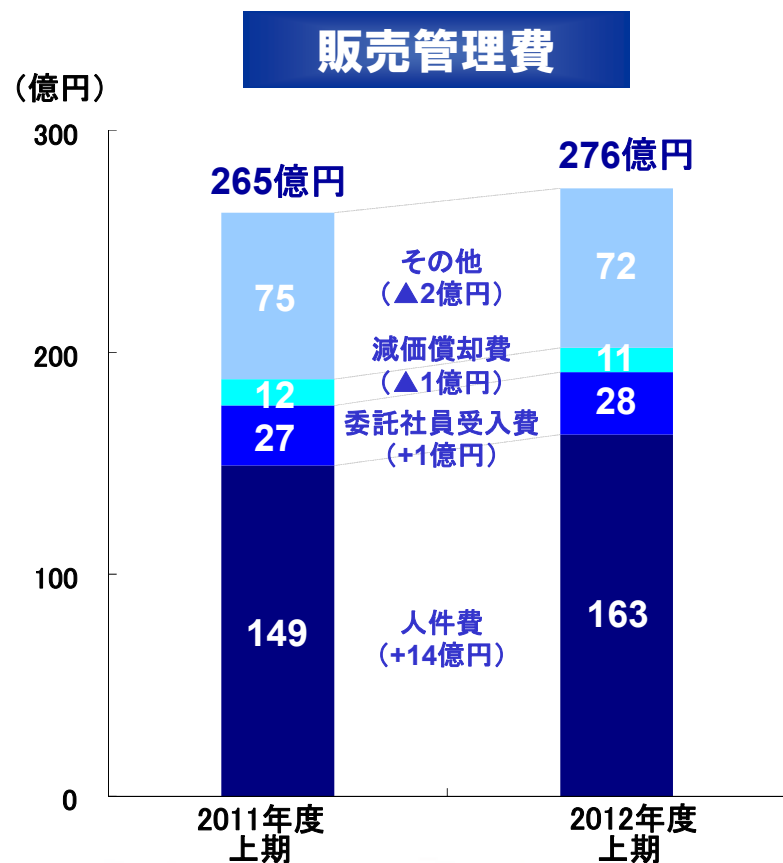


【参考】 販売管理費 増減要因（前年同期比）



■ 販売管理費は、人件費が増加（前年同期比14億円の増加）

- ・人件費： 業績連動賞与の増加が主要因
- ・委託社員受入費： 案件増加に伴い派遣エンジニアを増員も、稼働率改善により前年並みを維持
- ・その他： 諸経費抑制は継続実施



営業外損益および特別損益



	2011年度 上期 実績	2012年度 上期 実績	前年同期比	主な増減
	金額 (億円)	金額 (億円)	差異 (億円)	
営業外収益	2.0	1.7	▲0.3	—
営業外費用	▲1.6	▲1.8	▲0.2	—
営業外損益合計	0.4	▲0.1	▲0.5	
特別利益	0.2	0.1	▲0.0	—
特別損失	▲1.9	▲4.2	▲2.2	損害賠償金 ▲1.4億円 訴訟関連損失 ▲1.3億円
特別損益合計	▲1.7	▲4.0	▲2.3	

連結キャッシュ・フロー、B/S



■連結キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	2011年度 上期	2012年度 上期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	683	778	+95
営業活動によるキャッシュ・フロー	41	▲ 27	▲ 69
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 11	▲ 21	▲ 9
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 57	▲ 79	▲ 22
現金及び現金同等物の期末残高	655	648	▲ 6
フリー・キャッシュ・フロー	29	▲ 49	▲ 78

■フリー・キャッシュ・フロー (FCF)
 ・営業CFのマイナス(売上債権の増加・たな卸資産の増加)に加え、投資CFにおける支出の増加により、FCFは前期比減少。

主な増減

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
売上債権の増加 ▲39、たな卸資産の増加 ▲18
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得による支出の増加 ▲2
預け金の減少 ▲5

■財務CFの主な増減
 セール・アンド・リースバックによる収入 ▲26

■連結貸借対照表

	2011年度末 (3月末)	2012年度 上期末	増減額
流動資産	2,001	1,917	▲ 83
固定資産	525	528	+3
資産合計	2,527	2,446	▲ 80
流動負債	779	718	▲ 61
固定負債	159	162	+3
負債合計	938	881	▲ 57
純資産合計	1,588	1,565	▲ 22
負債純資産合計	2,527	2,446	▲ 80

【資産・負債等の主な内訳(カッコ内は前年同期比増減)】

■流動資産	
現金及び貯金	287億円(▲ 41億円)
受取手形及び売掛金	479億円(▲122億円)
有価証券	309億円(▲139億円)
たな卸資産	330億円(+ 94億円)
前払費用	227億円(+ 81億円)
■固定資産の主な増減	
有形固定資産	291億円(+ 3億円)
無形固定資産	72億円(▲ 4億円)
投資有価証券	46億円(+ 2億円)
■流動負債	
支払手形及び買掛金	194億円(▲ 47億円)
未払法人税	27億円(▲ 55億円)
賞与引当金	52億円(▲ 20億円)
前受収益	231億円(+ 56億円)
■純資産	
自己株式	▲103億円(▲50億円)
利益剰余金	1,110億円(+ 25億円)

2013年3月期

I 社長ご挨拶 / 上期決算総括

2013年3月期

II 上期決算概況

2013年3月期

III 下期・通期業績見通し

2013年3月期

IV 下期注力事項

2013年3月期 通期業績予想のポイント



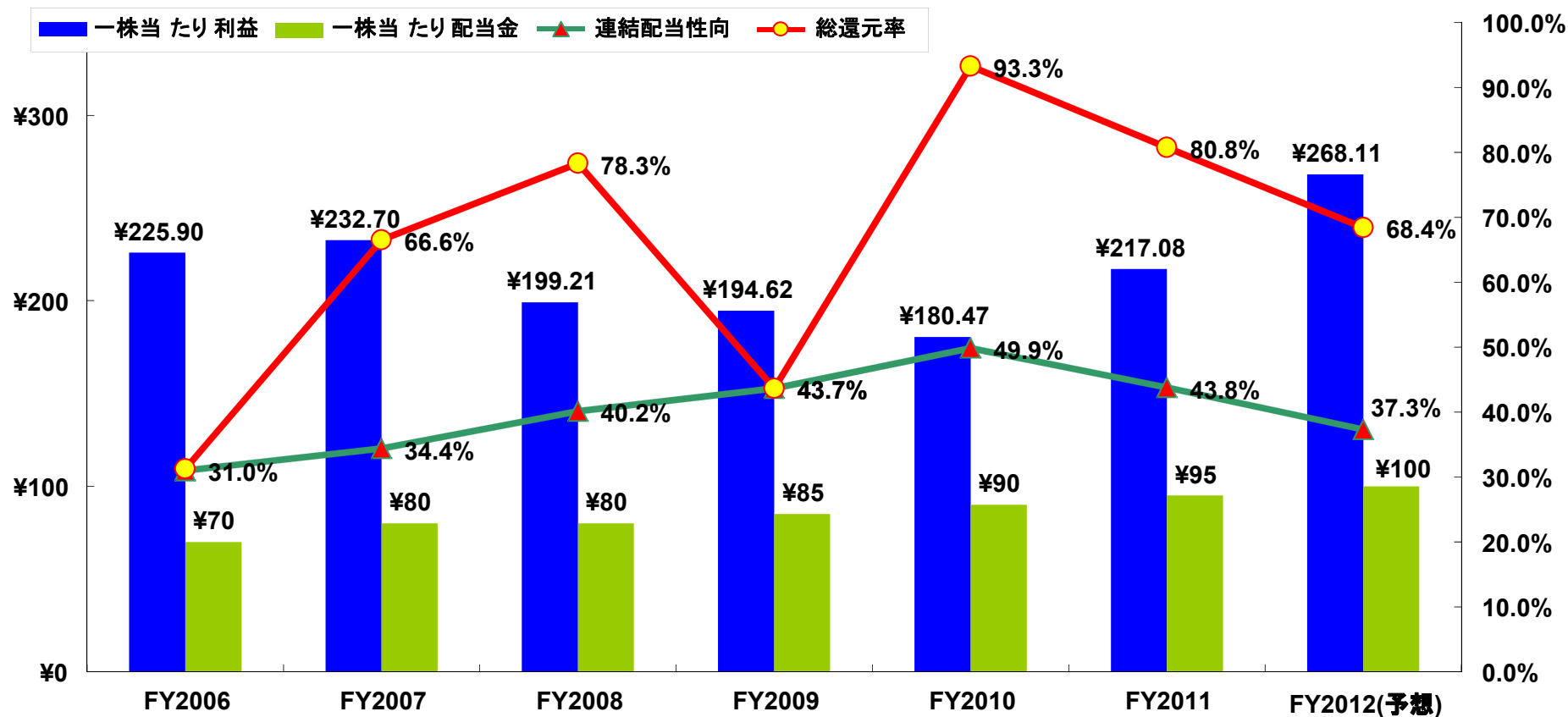
現時点では通期業績予想における修正を行わない

受注残の積み上がりもあり、下期は一定の売上確保が見込めるものの、継続する景気の不透明感を鑑みて、現時点では通期業績予想の修正を行わない。

株主還元



- 50円の間配当を実施（通期配当100円の予想）
- 連結配当性向は37.3%の予想（今期純利益160億円達成ベース）
- 上期、49.9億円/129万株の自己株を取得（配当を含めた総還元率は68.4%予想）



※総還元率 = (自己株式取得総額 + 配当総額) ÷ 当期純利益

2013年3月期

I 社長ご挨拶 / 上期決算総括

2013年3月期

II 上期決算概況

2013年3月期

III 下期・通期業績見通し

2013年3月期

IV 下期注力事項

マクロ環境動向

円高、欧州危機、中国情勢などの影響には引き続き注視が必要



IT業界動向

先行きに不透明感はあるものの、IT投資需要は全体として底堅く推移

- スマートフォンの普及、モバイル通信の高速化等によるシステム投資増加
- 基幹系システムの更新需要は堅調に推移
- クラウドコンピューティング利用、インフラ統合需要拡大
- 顧客の海外展開加速に伴う、グローバルサポート需要の増加

1

現行中期経営計画(FY10-FY12)の達成

■ 中期定量目標(内部成長)

⇒ 売上高:3,300億円、営業利益:270億円

2

下期重点施策

■ トップラインの伸長

⇒ 受注済み案件の確実な納入と、来期に向けた受注の拡大

■ 利益率の改善

⇒ 徹底した原価低減、不採算案件の抑制、販管費のコントロール

■ 中長期成長に向けた布石

⇒ グローバル展開の加速(ASEAN)

⇒ データセンタービジネスの拡大(13年4月新棟竣工予定)

⇒ 新規ビジネスの推進

事業グループ別 下期注力事項



事業グループ	注力事項
情報通信	<ul style="list-style-type: none">▶ スマートフォン普及に伴うデータトラフィック増加、モバイル通信の高速化に伴う、インフラ増強案件への対応▶ 認証系・サービス系システムの開発・SI案件強化▶ 大型インフラ共通基盤案件の推進
金融	<ul style="list-style-type: none">▶ メガバンク システム統合関連案件の着実な受注▶ メガバンク 国際系システム・法令対応案件の推進▶ 地銀 仮想化共通基盤ビジネスの強化
エンタープライズ	<ul style="list-style-type: none">▶ 既存システムの更新需要拡大に伴う、仮想化統合、クラウド、BCP・DR関連の提案強化▶ パブリッククラウドサービス(TechnoCUVIC)の拡販▶ 顧客の海外展開に伴うグローバルサポート案件推進
流通	<ul style="list-style-type: none">▶ 商社 グループ内クラウドサービスの強化▶ コンビニ 次期店舗システムの提案・構築

3

次期中期経営計画の策定準備

- 成長を続けるための戦略を具体論で展開
- FY13-FY14の2か年計画
- 2013年3月期 決算説明会にて発表予定

CTC

Challenging Tomorrow's Changes